

Title	巻頭言
Author(s)	井上, 孝
Journal	日本口腔検査学会雑誌, 10(1): 1-1
URL	http://hdl.handle.net/10130/4548
Right	
Description	

巻 頭 言

これからの歯科医療ビジョンの中における日本口腔検査学会の立ち位置

平成 29 年 12 月 25 日に、「歯科医師の資質向上等に関する検討会」の中間報告として「歯科保健医療ビジョン」の提言が報告された。この検討会は、「歯科医の専門性」、「女性歯科医の活躍」、「歯科医師の需給」の 3 つに分かれ検討されてきたものである。官僚の世界の検討会故、ご多分にもれず、「総論は話し合われるが、各論に関しては具体論が出ない」会議である。業を煮やした国は、中間報告を出して欲しいとなり、委員会では、中間報告として、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年を見据えた「歯科保健医療ビジョン」が出された訳である。本ビジョンは、日本における人口構造の変化、国民・患者の医療や介護のニーズの変化に加え、社会・経済・技術的变化に伴い、歯科保健医療に期待される役割が大きく変容しており、それに対応する歯科保健がどうあるべきかと言う総論ビジョンである。早い話が、「地域完結画多医療の中での高齢者型歯科医療提供体制の構築」が基盤になっている。

さて、このビジョンの中で要求されるのは、具体的な歯科専門医である。国民と歯科医師が共通できる歯科専門医とは、治療対象と治療内容が明確で有れば解りやすい専門医と言える。さらに、その領域（基本）の専門研修を受け、知識、技術の質、そして態度が担保された歯科医師を指し、さらに、質の向上を目指すことを義務づけるものが専門医制度であると言えば理解しやすい。その結果、国民から信用される標準的な歯科医療を提供できるのが専門医ということになる。つまり、各地域にあった、各施設に合った、各分野にあった、各治療内容とニーズに合った年限を設定した各種歯科専門医制度が設計され、その上、歯科専門医の評価基準の設定、更新制の実施などが構築されなくてはならない。その上で、専門医試験を受け、定期的な更新により質の担保を保障することになる。翻って日本口腔検査学会が掲げる、口腔検査専門医（現在は認定医）は、これらの専門医制度設計の中で、多くの専門医が修得しなければならない領域に包含され、その教育、情報発信する使命を持つものであると考える。故に、口腔検査専門医は、国民が理解できる専門医とは一線を引くもので、専門医制度の中で必要不可欠とされる専門医であるとする。

今回の第 11 回大会の日本口腔病理学会と共催の学会では、テーマに口腔専門医を取り上げた。会員一同、今後の「歯科保健医療ビジョン」の中での本学会の立ち位置を考える良い機会に成ることを希望してやまない。

理事長：井上 孝

2018 年 3 月